

作文部門・小学生の部

最優秀賞

自分達ができることから

鹿沼市立粕尾小学校六年

関口 瑠

私のおじいちゃんは、山が好きです。おじいちゃんは、家でドングリの苗を育てています。おじいちゃんに、なぜ苗を育てているのか聞いてみると、「山に木の実のなる木が、少ないから。」

と書いていました。しかし、私は、「なぜ少ないと、だめなの。」と聞き返しました。すると、

「山にいる動物は、木の実を食べる。その木の実が少ないと、人間の育てている野菜を食べへあらしでいってしまうから。」

と書いていました。それで、私は、おじいちゃんがドングリを育ててきたわけがわかりました。

それから、おばあちゃんと車に乗ると山を見るようになり、

「雑木が少ないなあ。」

と思うようになりました。

杉が多すぎるせいか、秋頃車に乗ると、いつも、

「紅葉が少ないなあ。」

と思っています。また、私のクラスには杉の花粉でアレルギーを起こす人が何人かいます。その時はとても大変だと思えます。

杉は戦争の後に家を建てるための材料として植えられたと聞きます。しかし、今では山を手入れする人も減り、あまり木材としては利用されていません。だから、山の木を杉から雑木に変えて里山をつくり、動物の住みやすい山をつくることで、動物だけでなく人間も住みやすくなると思います。

おじいちゃんは、ドングリの苗を植えるという自分でできることから私達の山を守ろうとしています。そして里山をつくり、動物も人間も仲良く暮らせるように努力しています。私もおじいちゃんを見習って自分でできることから始めたいと思います。

